

1. 略歴

1985年3月	静岡県静岡聖光学院高等学校卒業
1985年4月	東京大学教養学部文科三類入学
1989年3月	同 文学部英語英米文学科専修課程卒業
1989年4月	東京大学大学院人文科学研究科（英語英米文学専攻）入学
1992年3月	同 修士課程修了・修士（文学）
1993年10月	連合王国ケンブリッジ大学大学院博士課程入学（英米文学専攻）
1997年5月	同博士課程修了 博士号取得（文学） タイトル：‘Wallace Stevens and the Aesthetic of Boredom’
1992年4月	東京大学文学部英語英米文学科助手
1993年4月	帝京大学文学部助手
1997年4月	帝京大学文学部専任講師
2001年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

英米文学

b 研究課題

英語圏の詩、とくに 20 世紀におけるイギリスやアメリカの詩の研究を中心とする。個々の詩作品の緻密な解釈と、作品を作品たらしめる力学の解明に向けた努力を研究の中心としつつ、同時に、「なぜ詩でなければならぬか？」という素朴な疑問との取り組みをも新たな課題とする。詩を自足的なジャンルとみなすのではなく、「詩的であること」を絵画・舞台芸術、スポーツ、インターネット空間などとの関係でとらえることもテーマとする。

c 主要業績

(1) 著書

- 単著、阿部公彦、『文学を〈凝視する〉』、岩波書店、2012.9
- 共著、竹内勝徳・高橋勤編、『環大西洋の想像力—越境するアメリカン・ルネッサンス文学』、彩流社、2013
- 共著、富士川義之・玉井暉・河内恵子編、『オスカー・ワイルドの世界』、開文社、2013
- 共著、庄司宏子編、『絵のなかの物語』、法政大学出版局、2013
- 単著、阿部公彦、『詩的思考のめざめ—心と言葉にほんとうは起きていること』、東京大学出版会、2014.2

(2) 論文

- 阿部公彦、「ウォレス・ステイヴンズの無愛想」、『Web 英語青年』、2-3月号、2-14, 2-19頁、2012.2
- 阿部公彦、「女を嫌うための作法」（上下）、『Web 英語青年』、3-4月号、16-25, 2-11頁、2012.3
- 阿部公彦、「ジェーン・オースティンの不機嫌」、『Web 英語青年』、5-6月号、2-11, 2-13頁、2012.5
- 阿部公彦、「アリスと「イライラ」—ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』」、『Web 英語青年』、7-8月号、2-7, 2-11頁、2012.7
- 阿部公彦、「D.H.ロレンス『チャタレイ夫人の恋人』の礼儀作法」、『Web 英語青年』、10-11月号、18-27, 14-27頁、2012.10
- 阿部公彦、「ふたつの冠婚葬祭小説—オコナーとトレヴァー」、『Web 英語青年』、12-1月号、20-30, 16-29頁、2012.12
- 阿部公彦、「ホイットマンの音量調節」、竹内勝典・高橋勤編『環大西洋の想像力—越境するアメリカン・ルネッサンス文学』（彩流社）、239-60頁、2013
- 阿部公彦、「〈目の失敗〉の物語—ウォレス・ステイヴンズとハワード・ホジキン」、庄司宏子編『絵のなかの物語—文学者が絵を読むとは』（法政大学出版局）、153-185頁、2013
- 阿部公彦、「ナサニエル・ホーソーン『七破風の家』の気遣う語り手」、西谷拓哉・成田雅彦編『アメリカン・ルネッサンス—批評の新生』、324-344頁、2013
- 阿部公彦、「佐藤泰志の主人公たちが痛い目に合うわけ」、福岡健二監修『佐藤泰志—生の輝きをもとめつづけた作家』、194-99頁、2013
- 阿部公彦、「大江健三郎と英詩—日本語の未開領域をめぐって」、『早稲田文学』、2013年6月号、322-332頁、2013.6

阿部公彦、「百合子さんのお腹の具合」、『ユリイカ』、2013年10月号、169-176頁、2013.10

阿部公彦、「英文学と事務能力」、『れにくさ』、5.2 (2014)、300-318頁、2014.3

(3) 書評

高市順一郎監訳、『Immortal Monuments—16 Modern Japanese Poets』、思潮社、『現代詩手帖』、4月号、127頁、2012.4

高橋源一郎、『非常時のことば』、朝日新聞出版、『小説 トリップパー』、2012年秋号、331-333頁、2012.9

新田啓子、『アメリカ文学のカルトグラフィ—批評による認知地図の試み』、研究社、『アメリカ学会会報』、no.180(November, 2012)、6頁、2012.11

江國香織、『犬とハーモニカ』、新潮社、『群像』、2012年12月号、326-27頁、2012.12

四元康祐、『日本語の虜囚』、思潮社、『現代詩手帖』、2012年12月号、69頁、2012.12

佐藤健二、『ケータイ化する日本語—モバイル時代の“感じる”、“伝える”、“考える”』、大修館書店、『英語教育』、2013年1月号、95頁、2013

四元康祐、『日本語の虜囚』、大修館書店、『季刊ビーグル 詩の海へ』、2013年1月、2013

ジョイス・キャロル・オーツ、吉岡葉子訳、『新しい天、新しい地 文学における先見的体験』、開文社、『週刊読書人』、2013年1月25日号、5頁、2013.1

辻原登、『冬の旅』、集英社、『文學界』、2013年4月号、288-89頁、2013

島本理生、『よだかの片想い』、集英社、『公明新聞』、2013年6月3日、2013

石田千、『バスを待って』、小学館、『文學界』、2013年9月号、266-67頁、2013

鈴木和成・野村喜和夫、『金子光晴デュオの旅』、未来社、『週刊読書人』、2014年2月28日号、5頁、2013

エリザベス・ボウエン、太田良子訳、『ボウエン幻想短篇集』、国書刊行会、『図書新聞』、2013年2月2日、5頁、2013.2

小川国夫、『ヨレハ記』、ふねうま舎、『文學界』、2013年3月号、266-67頁、2013.3

三浦衛、『マハーヴェギナ または巫山の夢』、春風社、『週刊読書人』、2013年3月29日号、7頁、2013.3

佐伯一麦、『光の闇』、扶桑社、『産経新聞』、2013年5月26日、2013.5

リチャード・パワーズ、木原善彦訳、『幸福の遺伝子』、新潮社、『週刊読書人』、2013年7月12日、5頁、2013.7

西村賢太、『棺に跨る』、文藝春秋、『文學界』、2013年9月号、302-303頁、2013.9

ローラン・ビネ、高橋啓訳、『HHhH—プラハ、1942年』、東京創元社、『公明新聞』、2013年9月23日、4頁、2013.9

本谷有希子、『自分を好きになる方法』、講談社、『新潮』、2013年10月号、322-323頁、2013.10

中村文則、『去年の冬、君と別れ』、幻冬舎、『週刊文春』、2013年10月31日号、133頁、2013.10

(4) 解説

阿部公彦、「明朝の人にして沈鬱な魂の持ち主」、深瀬基寛『日本の砂漠のなかに』(講談社文芸文庫)、225-238頁、2013

阿部公彦、「田原解説」、『田原詩集』、2014

(5) 学会発表

国内、阿部公彦、「ワーズワスと詩の力」、東北学院大学・英語英文学研究所学術講演会、東北学院大学、2012.9.29

国内、阿部公彦、『幸福な王子』を読む—受講者への五つの問いかけ、「鼎談 ワイルド作品を教育的に活用する」(日本ワイルド協会第37回大会)、慶應義塾大学・日吉キャンパス・来往舎、2012.12.2

国内、阿部公彦、「英詩の甘み—シェイクスピアの『ソネット集』と詩の可能性」、武庫川女子大学英文学会、武庫川女子大学、2013

国内、阿部公彦、「\のぞき、の技法」、シンポジウム「アメリカ小説の大衆的ふるまい—誰が小説を解放するのか」(第85回日本英文学会全国大会)、東北大学、2013.5.26

国内、阿部公彦、「オルソンとイギリス—J・H・プリンを中心に」、日本アメリカ文学会東京支部例会シンポジウム「チャールズ・オルソンって誰?『マクシマス詩篇』って何?—大文字の HISTORY から小文字の history へ」、慶應義塾大学・三田キャンパス、2013.6.29

国内、阿部公彦、「英詩の甘味—シェイクスピアの恋愛詩を読む」、立正大学英文学会、立正大学大崎キャンパス、2013.9.22

国内、阿部公彦、「英語の勉強」、英語フォーラム、静岡聖光学院高等学校、2013.10.5

国内、阿部公彦、「凝視とのぞき」、京都造形芸術大学特別講義、京都造形大学、2013.10.23

国内、阿部公彦、「嫌がる学生に無理矢理英詩を読ませることについて」、日本英文学会関東支部秋季大会・シンポジウム「古典の困難」、日本女子大学、2013.11.2

国内、阿部公彦、「シェイクスピアのソネット」、北九州市立大学外国語学部国際関係学科講演会、北九州市立大学、2013.11.26

(6) 啓蒙

阿部公彦、「記憶の捏造をめぐって—ワーズワスを教えたい(2)」、『図書』、1月号、31-35頁、2012.1

阿部公彦、「突然の—ワーズワスを教えたい(3)」、『図書』、2月号(756号)、25-29頁、2012.2

阿部公彦、「石田千インタビュー」、『群像』、2012年4月号、280-87頁、2012.4

阿部公彦、「『鷗外選集』の中にいたもの 心の原風景となったA君と全集のつながり」、『週刊読書人』、2012年6月29日号、7頁、2012.6

阿部公彦、「48人へのアンケート 2012年上半期の収穫から」、『週刊読書人』、2012年7月27日、1頁、2012.7

阿部公彦、「フィッツジェラルドの教え方」、『日本フィッツジェラルド協会 ニュースレター』、27号、11-12頁、2012.10

阿部公彦、「解説 由良君美とは何者か?」、由良君美『みみずく古本市』、393-400頁、2013

阿部公彦、「憧れの著者と対面—池上嘉彦『記号論への招待』『東大教師 青春の一冊』(信山社)、254-56頁、2013

阿部公彦、「少しばかり遅れた出会い」、『マーク・トウェイン 研究と批評』、第12号(2013)、61-2頁、2013.4

阿部公彦、「東大教師が新入生にすすめる本」、『UP』、2013年4月、2頁、2013.4

阿部公彦、「斜めが気になる」、『en-Taxi』、2013年春号 vol.38、192頁、2013.5

阿部公彦・四元康祐、「対談：詩と呼ぶしかない言語空間」、『現代詩手帖』、2013年5月号、10-22頁、2013.5

阿部公彦、「アンケート 2013年上半期の収穫から」、『週刊読書人』、2013年7月26日号、1頁、2013.7

(7) マスコミ

「創作合評」、『群像』(2013年11月号)、2013.11

「創作合評」、『群像』(2013年12月号)、2013.12

「創作合評」、『群像』(2014年1月号)、2014.1

「新人小説月評」、『文學界』(2014年1月号)、2014.1

「新人小説月評」、『文學界』(2014年2月号)、2014.2

「新人小説月評」、『文學界』(2014年3月号)、2014.3

(8) 受賞

国内、阿部公彦、ABE MASAHIKO、サントリー学芸賞、Suntory Prize for Social Sciences and Humanities、サントリー文化財団、Suntory Foundation、2013.12.10

(9) 教科書

『精選 国語総合』、中洩正堯・岩崎昇一編、編集委員、三省堂、2013

『高等学校 国語総合』、中洩正堯・岩崎昇一編、編集委員、三省堂、2013

(10) 翻訳

個人訳、Bernard Malamud、"The Magic Barrel"、『魔法の樽 他十二篇』、2013

個人訳、Kimiko Hahn、"The Japanese Firefly Squid"、『日本の蛍烏賊を見ると』、『Granta』、01、151頁、早稲田文学会／早川書房、2014.2

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、慶應義塾大学、「英文学演習」、2012.4～2013.3

その他、福岡KBCシネマ、「〈BUNGO〉と凝視」、2012.11～

特別講演、西南学院大学、「私たちはなぜ詩が読めないのか?」、2012.11

非常勤講師、広島大学、「アメリカの詩を読む」、2013.8～

非常勤講師、九州大学比較文化学府、「テキストの快楽」、2013.9～

非常勤講師、北九州市立大学、「シェイクスピアのソネット」、2013.11～

(2) 学会

国内、日本英文学会、理事、2013.4～

国内、日本アメリカ文学会東京支部、評議員、2013.4～

国内、日本英文学会関東支部、理事、2013.4～